

地域に親しみ、小学校教育へとつなげる幼児教育の在り方 ～鴨川の海をテーマにした実践を通して～

鴨川市教育委員会学校教育課主査／鴨川市健康福祉部子ども支援課主査

(前鴨川市立江見認定こども園長) ^{かまだ}鎌田 ^{えつこ}悦子



1 はじめに

幼児教育は生涯にわたる学びや生活の基礎を培う教育である。すぐに結果は出ないが「後伸びする力」を培うことが期待できる。日々の園生活において、園児の好奇心や探究心が培われるとともに自立心や協同性が育まれる。そこで、園児にとって身近な「海」をテーマにした直接体験から、園児が好奇心や探究心を抱き、遊びを楽しむことで「後伸びする力」につないでいきたいと考え、鴨川の自然と産業の中心となっている「鴨川の海」をテーマにした園外保育を実施した。

2 鴨川市の教育から

16年前から取り組んできた鴨川市の幼小中一貫教育の合言葉は、「学びと育ちをつなげていく」ことである。県内初の小中一貫校も誕生し、就学前の幼児教育の在り方が議論されるようになった。また、市内全園が認定こども園となることが決まり、新たな鴨川市の幼児教育の構築が求められ、園内研究を深めていくことにした。

3 研究の方向性

園児の好奇心や探究心は、保育教諭の適切な援助や環境の構成によって育まれる。また、幼児期に身体感覚を伴う多様な体験をすることで、豊かな感性が養われていく。そこで「鴨川の海」に関わる園外保育を実施して、体験の重要性と園児の経験を豊かにするための指導方法の工夫について探ることにした。

4 研究の結果（園児の実際から）

(1) 3歳児の実践「海の音が聞こえる」

園児が海岸で貝殻を耳にあてて発見した「海の音」。これをきっかけに、海岸で様々な探索活動が繰り広げられた。園児は、その後の保育でも海岸で発見したものを使って、ままごとや製作に夢中になって取り組んだ。

(2) 4歳児の実践「エビ網ごっこ」

園外保育の後に地域の方を招き、エビ網漁のやり方を実演していただいた。この実演が「エビ網ごっこ」につながり、様々な素材を利用して網や魚等を協働で製作する姿が見られた。製作の過程では、友達の思いや考えを知り、目的に向かって互いの思いを調整する姿が見られるようになった。

(3) 5歳児の実践「フグ見つけたよ」

漁港見学では、海でとれた魚を実際に見て触って感じる体験をした。フグに興味を持ち、事前に図鑑で調べていた園児が「フグ見つけたよ」と感動の声を上げていた。知識と体験がつながり、興味・関心を高めることにつながった。

5 研究の成果

園児の姿から、体験を重視した指導が好奇心や探究心の向上につながり、保育の質の向上に向かうことが確かめられた。認定こども園における共通の経験や一つの目的に向かって試行錯誤する活動は、小学校以降の「思考力」の高まりへとつながり「後伸びする力」になると考えられる。今後も小学校教育との連携を取りながら、幼児教育の充実を図っていきたい。(令和元年度 千葉県国公立幼稚園・こども園協会指定公開研究会)